



有形文化財（彫刻）

27. ^{もくぞうだんしんぞう}木造男神像 ^く1 軀

■指定年月日 昭和63年3月18日（1988）

■像 高 79.0cm

■所在地 若山町経念12-32

■所有者 ^{こましひこ}古麻志比古神社

冠をかぶり、頭をわずかにたれて坐る男神の像である。けやきを材料とした一本丸彫りづくりである。冠から左面部、手から膝^{ひざ}にかけての朽損が著しい。大きめの耳、肩から胸にかけての流れる曲線。鼻すじはきりっと通り、口もとをひきしめた端正で威厳のある容姿である。平安末から鎌倉初期の様式を保つ古神像である。

古麻志比古神社は、平安初期に作成された、全国の主な神社名を記した「^{えんぎしきじんみょうちょう}延喜式神名帳」に載せられている古い神社である。ちなみに珠洲市内では同社と須須神社・^{かしはらひこ}加志波良比古神社の三社が登録されている。この三社は、平安時代の始めごろすでにこの地方の中心的な神社として中央にも知られる、

地域民の尊崇を集めた神社であったわけである。

当社は古麻志比古神社の社名からみて高句麗系^{こうくり}の渡来人の祖神^{まつ}を祀った社であるとの見方が有力である。

ここには、古様式の神像が多いが、この男神像は、中でも中心的なもので、古代における尊崇の中心であったとも考えられ、貴重な文化財といえよう。